

広報 NASUKARASUYAMA

那須 烏山

— No.81 —

2012
June

6

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

土砂災害に備えよう……………	2
B & G海洋センターオープン……………	7
市政情報等……………	8
まちの話題……………	16
インフォメーション……………	18



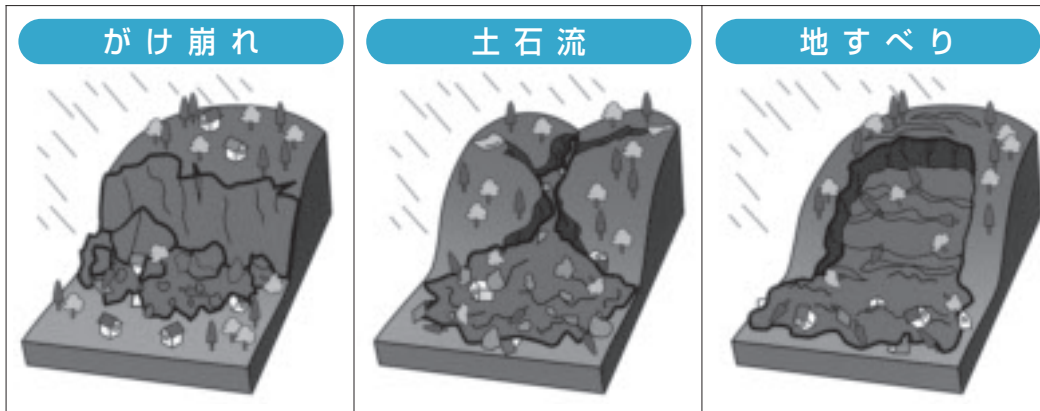
中村真衣さん指導の水泳教室(5月12日、B&Gプール)

■ 特集 ■

土砂災害に 備えよう。

土砂災害を正しく知り、日頃の備えで身を守る

土砂災害の種類



6月は「土砂災害防止月間」です。長雨や集中豪雨が多くなるこれからの時期、全国各地で土砂災害が発生し、時には尊い命が奪われることもあります。市内では、昨年の東日本大震災で2名が犠牲となりました。大地震に続く台風15号やその後の豪雨などで、地盤が不安定となり、これまで以上に土砂災害が発生しやすい状態にあります。この「土砂災害」を正しく知るとともに、日頃の備えで自分や家族の身を守りましょう。

本市は、山や丘陵地などの傾斜地が多く、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害発生危険性がある「土砂災害危険箇所」が、約350箇所あります。

土砂災害で、身を守る最も確実な方法は、危険箇所から「逃げる」こと。どこを通過してどこに避難するか、どのタイミングで避難するかなど、万が一に備えて防災対策について再度確認していきましょう。

日頃から、家族全員で避難所や避難所までの道順を決めておくことと安心です。道順は、災害危険箇所の近くを通らないようにしましょう。

避難所は、危機管理室に備え付けている「ハザードマップ」や市ホームページなどで確認できます。

土砂災害の種類

土砂災害とは、大雨や地震などにより山やがけが崩れ、土や石と一緒に流れて、ものすごい勢いで流れ出すことにより、私たちの生命や財産が脅かされる災害です。土砂災害には、がけ崩れ、土石流、地すべりの3種類があります。

■がけ崩れ

大雨や地震などの影響で、急な斜面が一気に崩れ落ちる現象。

■土石流

山の斜面が崩れたときに、崩れた土や石が、雨水や川の水と一緒に流れて流れる現象。

■地すべり

斜面の一部又は全部が、ゆっくりと下方へずれ落ちる現象。

日頃の備えが大切

土砂災害はいつ起きるかわかりません。土砂災害から自分や家族の身を守るためには、日頃の備えが大切です。例えば、土砂災害の前兆現象を知っておくことや、ふだんから家の周りの状況確認をおこなしましょう。

いざというときに備えて、日頃から家族と話し合ってみてください。

■前兆現象とは

土砂災害が起きる前には、前兆現象と呼ばれる前触れがみられることがあります。

次のような前兆現象に気付いたときは、周りの人に知らせて、早く避難しましょう。また、少しでも疑問に感じたら、市役所や土木事務所などの関係機関に連絡しましょう。

- 水がわき出る
- 小石が落ちてくる
- 水位が下がる
- 山鳴りがする



昨年の大震災による土砂崩れ(左)が復旧し、3月に開通した市道興野大沢線は、5月の大雨で再び土砂崩れにより通行止めとなった。

- 川がにごる
- 割れ目が見える
- 水が噴き出す
- ひび割れができる
- 井戸の水が濁る

■危険箇所を確認

市内には、土砂災害が起きる恐れのある「土砂災害警戒区域」や「同特別区域」に指定されている場所が、現在358箇所あります。これらの場所は「土砂災害危険箇所」として、看板による表示やインターネット(※1)で確認ができます。また、毎年6月の「土砂災害防止月間」には、「土砂災害危険箇所」内にお住まいの方々に、県がダイレクトメールによる周知を行っています。

自分の家や学校、職場の近くに土砂災害が起きる恐れのある場所はないか、確認しておくことが大切です。

(※1)「土砂災害危険箇所マップ」アドレス <http://www.dgis.pref.tochigi.lg.jp/map/login.aspx>

■避難場所や連絡先を確認

土砂災害はいつ起きるかわかりません。外出先から直接避難する場合もあります。日頃から、家族で連絡を取り合う方法を話し合い、避難場所を確認しておきましょう。

避難行動の方法

土砂災害から身を守る上で最も有効なのは、早めの避難ですが、いざ災害となった場合に、どのような行動をとればよいのでしょうか。

■土砂災害の前兆現象があったら

地震や大雨などで、土砂災害発生の際

恐れがある場合、テレビやインターネットなどで情報を収集し、危ないと感じたら、早めに自主避難しましょう。

■非常持ち出し品の確認

避難行動に備えて、水や食料、ラジオなどの日用品、衣類、常備薬やマスクなどの安全用品、貴重品、その他、保険証の写しなど、非常持ち出し品を確認しておきましょう。

情報を手に入れる

県では、住民の皆さんが自主避難を判断するための情報を、インターネットで配信しています。大雨や台風のと きなど、土砂災害が起きる恐れのある時は、積極的にそれらを活用して土砂災害から身を守りましょう。

○土砂災害警戒情報

「とちぎ土砂災害警戒情報システム」では、県内で発令されている土砂災害警戒情報の市町村単位の発令状況などが一目でわかり、自主避難の判断に活用できます。

アドレス http://www.dif.pref.tochigi.jp/dosya_keikai/

携帯電話用アドレス http://www.dif.jp/ref.tochigi.lg.jp/dosya_keikai/mv/

○雨量情報

「とちぎリアルタイム雨量河川水位観測情報」で、県内各地の観測局で観測された雨量や河川の水位、洪水の予測などの情報を、リアルタイムで確認することができます。洪水予測なども知ることができます。

洪水予測などにも知ることができます。洪水予測
アドレス <http://www.dif.pref.tochigi.jp/>



震災で崩れた曲細地内の市道大赤根逆川線。

災害を防ぐ取り組み

県や市では、数多い土砂災害危険箇所のうち、避難場所・災害時要援護者施設・緊急輸送路・公共施設などを含む箇所を優先的に整備しています。

全ての危険箇所を整備するためには、莫大な時間と費用を要します。このため、市民の安全で安心な暮らしを守るため、計画的に整備を進めるとともに、土砂災害に関する情報を提供するほか、災害に備える活動や土砂災害防止の周知にも力を入れています。

■「土砂災害防止月間」の取り組み

国では、梅雨に入り、大雨による土砂

災害が増える時期である6月を「土砂災害防止月間」としています。

期間中には、県や市でも様々な啓発活動を行っています。

自主防災組織の必要性

■組織化の背景

近年、全国各地で発生している地震、台風、豪雨などの災害をきっかけに、「安全で安心な暮らしの大切さ」が改めて認識され、地域の防災に対する関心が高まっています。これまでの大震災では、生き埋めや建物等に閉じ込められた人の多くが、自力または家族や隣人によって救助されています。

大規模な災害が発生した直後は、行

■市内の土砂災害警戒区域指定状況

区分	警戒区域	特別警戒区域
急傾斜地崩壊危険箇所	185箇所	184箇所
土石流危険渓流	157箇所	112箇所
地すべり危険箇所	16箇所	0箇所
合計	358箇所	296箇所

※特別警戒区域は、警戒区域の内数。

政機関等による対応が困難なこともあり、地域住民がお互い助け合い、人命救助や消火にあたることで被害をより少なくすることにつながります。そのため市では、自主防災の取り組みを広く呼び掛けています。4月1日には、市内で初めて小倉自治会が自主防災会を結成しました。

■自主防災組織とは

自主防災組織とは、住民一人ひとりが「自らの命は自ら守る」という考え方の地域は自ら守る」という考え方にたつて、自主的に防災活動を行う組織のことです。

■普段の活動例

○防災に対する心構えの啓発(研修会へ

- の参加等)
- 災害発生時の未然防止のための地域活動(地域の巡回等)
- 災害発生に備えて地域を知るための活動(避難場所の把握等)
- 災害発生時の活動を習得するための活動(消火、避難訓練等)
- 災害発生時に備えた活動(機材や備蓄

市内初の小倉自治会自主防災会 地域の人で素早い対応を

小倉自治会では、昨年の総会で組織化を決め、今年4月に市内初となる小倉自治会自主防災会(高津戸弘会長)を結成しました。

「昨年の大震災や水害で、住民の防災に対する意識が高まった」と高津戸会長。同地区の消防団も、自主的に東北の被災地でボランティア活動を行いました。



小倉防災会の(左から)高津戸弘さん、堀江裕弥子さん、菊池俊雄さん。

同地区での取り組みは早く、平成21年に当時の堀江忠雄自治会長、菊池俊雄副会長、梅田友子主任児童委員、堀江裕弥子民生委員らが自主防災の必要性を強く感じ「防災マップ準備委員会」を設立。支援対象者の把握や協力委員選任など進めるほか、毎年11月に防災イベントを開いてきました。

同会では、「ボランティアセンターを自前で作るようなもの。救出なども、地域を良く知る人のほうが素早い対応ができる」という考えから、人命救助などの初動、物資の確保、本部への情報伝達などに重点を置いています。また、この活動には、地域での日頃の交流の大切さも感じています。

同会は、「役割分担がうまくできた。必要性を感じる人が数人いればすぐに取り組める」と、市内へ広がることを期待していました。

品の管理等)

■災害時の活動例

- 情報収集伝達活動(救援情報の伝達等)
- 初期消火活動(消火器による消火活動等)
- 避難誘導活動(安否確認や介護が必要な人への援助等)
- 救出救援活動(負傷者の救援等)
- 給食給水活動(救援物資の避難所への運搬・分配等)

■組織をつくるには

組織は、地域住民が結成に合意し、規約、組織、活動内容を定めることで成立します。防災活動は、市や消防機関との連携が必要ですので、結成の際は総務課危機管理室まで報告ください。

- ①自治会などのコミュニティ内で話し合いを進める
- ア.どの範囲(地域)を対象とするのか
- イ.どのような活動を行うのか
- ウ.どのような組織にするのか など
- ②地域の住民が自主防災組織の結成に合意したら、簡単な規約を定める
- ③自主防災組織を結成
- ④市へ設立を報告

総合防災訓練に参加を

9月2日には、県と市が合同で、総合防災訓練を大桶運動公園で開催します。市民による避難訓練や救出救助訓練等もありますので、ぜひ、ご参加ください。(詳細は後日お知らせします)

■総務課危機管理室

☎0287-83-1111



上…子どもに人気のカキ水／左…式典で復興の決意を語る谷田龍心君。

仮設住宅1周年の集い 大きな人の輪の中で 新たに復興を決意

岩子仮設住宅(曾根原勉代表)では、5月20日、これまでの支援に感謝し、関係者を招いて「仮設1周年の集い」を開催しました。当日は、大谷範雄市長はじめ、関係機関の代表、県内ボランティア団体、近隣の住民などが参加して、入居者と交流を深めました。同住宅では、当初67人(20世帯)だった入居者が、現在は43人(13世帯)となり、市内の復興も着々と進んでいます。

式典では、出席者が次々と復興の決意を述べました。曾根原代表は「人と人とのつながり・輪の中でここまで再建でき、感謝の気持ちで一杯。一刻も早く復興し、今度は、ボランティアとして皆さんのように貢献したい」と話しました。会場では、小山市のボランティア団体「YAMBE」が炊き出しを行い、参加者は、焼きそばや牛串などを堪能しました。県内ラーメン店主による被災地支援組織「栃木照る照る坊主の会」や、「チーム龍」などのボランティア団体も協力。演奏会では、みんなの手拍子で、会場が一体となりました。

最後に、打ち上げ花火が盛大に夜空を彩ると、参加者は、復興の決意を新たにしました。

消防団長に聞く

那須烏山市消防団

興野一美団長

消防団長として、昨年の大震災で発生した神長の土砂崩れ現場に立ち、「災害の恐ろしさを改めて感じた」という興野一美団長に話を聞きました。

◇
◇
◇



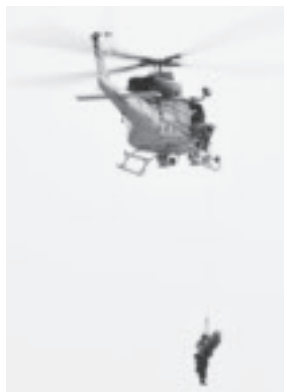
予測が難しい土砂災害

市内では、この震災で2人、昭和61年の台風で1人が犠牲となっていますが、まだまだ市民の危機意識は低いと感じます。自宅付近が危険箇所指定されていても、「自分のところは大丈夫」と思っている人が多いのではないのでしょうか。「土砂災害」は、崩れて初めてわかるようなもの。先日、県内でも大きな被害をもたらした「竜巻」のように、実際にどこで発生するのか予測するのは、非常に難しいことです。東日本大震災では、通信手段の不十分さも感じました。素早い対応をするために、なるべく早く情報収集ができるような方法を検討しています。土砂災害のほかに、火の不始末による火災なども多く発生しているので、皆さんに「火の怖さ」をもっと知って欲しいです。

防災ヘリや救助艇が出動

那珂川で水難救助訓練

南那須広域行政事務組合消防本部では、那須烏山・那珂川警察署と合同で、5月24日、野上舟戸の那珂川で、水難救助訓練を行いました。訓練は、台風などによる河川増水や夏季のレジャーシーズンに備え、救助技術の向上と関係機関の連携強化、水難事故防止の啓発などを目的に実施した



防災ヘリと救助艇による訓練。



ものでは、関係者約65人が参加し、県消防防災ヘリコプター「おおるり」や、救助艇による救助方法を確認しました。

南那須B&G海洋センターをリニューアルオープン



市は、B & G財団(穂田功会長の支援を受け、昨年からプールの屋内化など「南那須B & G海洋センター」の全面改修工事を行い、5月12日にリニューアルオープン式を開催しました。同センターは、昭和61年に同財団が建設し、平成元年に旧南那須町に無償譲渡したもので、建設から25年が経過し、老朽化が進んでいました。このため、総工費1億2552万6千円(うち同財団から3千万円助成)をかけ、施設の屋根・壁の改修、プール槽の塗装、管理棟ロビーの増築のほか、スロープやプール入水階段を新設するなど、利用者が、より安全に利用



上から、中村さんによる水泳教室／代表者によるテープカット／泳ぎ初めで中村さんが背泳ぎを披露／本物の五輪メダルにタッチ。

できる施設にリニューアルしました。オープン式では、大谷範雄市長

が「財団から多大な支援を受け、立派な施設が完成した。子どもから高齢者まで、多くの市民に利用してほしい」とあいさつ。広渡英治同財団理事長ら5人によるテープカットで、完成を祝いました。

その後、同財団理事で、シドニー五輪100m背泳ぎ銀メダリストの中村真衣さんによる泳ぎ初めや、水泳教室なども行いました。中村さんは、参加した小学生に帽子やゴーグルの付け方、基本的な泳ぎ方などをわかりやすく指導。サイン会やメダルタッチ会では、参加

者が、五輪の銀と銅メダルに興味深く触れていました。

市は、今回の改修による温水化で、施設の開設期間を5月から10月までの6か月間に延長するとともに、新たに水中運動教室を開くなど、市民の健康づくりに取り組むことにしています。

■生涯学習課 ☎0287-88-6223

◇ ◇ ◇
なお、同センターでは、地域のクリーン活動などを10年間続けてきたことや、プール利用者数が多いことから、B & G財団表彰を受賞しました。

第3回市議会



平成23年度一般会計補正予算の専決処分を承認 七合小体育館の工事請負契約締結を可決

平成24年第3回市議会臨時会が5月9日に開かれ、七合小学校体育館改築工事請負契約締結に関する議案を可決、平成23年度一般会計補正予算など3件の専決処分を承認、発議1件を可決しました。主な内容は次のとおりです。詳しくは議会事務局(☎0287-88-7114)までお問い合わせください。

議決事項

七合小学校体育館の改築工事請負契約を2億7352万5千円で、平野・山田・渡邊特定建設工事共同企業体と締結することになりました。

専決処分の承認
平成23年度一般会計の補正予算を4億7671万2千円増額し、総額152億3440万7千円と

しました。歳入の主な内容は、特別交付税と震災復興特別交付税の確定による増額等で、歳出の主な内容は、財政調整基金への積み立て3億8941万1千円、旧東小学校の財産売却に伴う学校施設整備基金への積み立て8390万円、市債借入額の減額などです。

条例関係では、地方税法等の一部改正に伴い、市税条例及び国民健康保険税条例の一部改正しました。主な内容は、市民税及び国民健

康保険税で東日本大震災被災者に係る特例の実施、固定資産税で土地の課税標準額の負担調整の特例を3年間継続するものです。

その他

損害賠償額及び和解についての専決処分を報告しました。

また、議会発議により農業委員会委員に興野礼子氏、木下智恵子氏の推薦を可決し、烏山緑利用向上対策特別委員長に小森幸雄氏の互選を報告しました。

東京スカイツリータウンに「とちまるショップ」オープン

東京スカイツリータウン内に、とちぎの魅力を全国に発信する県で初のアンテナショップ「とちまるショップ」が、5月22日にオープンしました。店舗は、同日開業した東京スカイツリーに併設する都内最大級の商業施設「東京ソラマチ」のイーストヤード4階に新店。店内では県産品1千点以上を販売し、観光PRコーナーも設けています。本市の和紙製品や地酒なども販売されています。

なお、県では、随時、店内で販売する特産品等を募集しています。問合せは、運営会社(株)ファーマーズ・フォレスト ☎028-665-8800まで。

■商工観光課 ☎0287-83-1115

多くの県産品が並び店内。



■市の工事請負等契約

(前月20日までの入札結果、単位は千円、250万円以上)

事業名	箇所	業者名	金額	工期
七合小学校スクールバス運行管理業務委託	市内	(株)工フエー観光	61,425	4/1~29.3/31
烏山中学校スクールバス運行管理業務委託	市内	(有)エル交通	41,227	4/1~29.3/31
自家用電気工作物等保守管理業務委託その1	市内	篠崎電気技術管理	17,577	4/1~29.3/31
自家用電気工作物等保守管理業務委託その2	市内	(財)関東電気保安協会	14,529	4/1~29.3/31
烏山庁舎清掃業務委託	中央	関東ビルサービス(株)	6,630	4/1~29.3/31
南那須庁舎清掃業務委託	大金	(株)大高商事	13,308	4/1~29.3/31
保健福祉センター特別清掃業務委託	田野倉	宮ビルサービス(株)	7,297	4/1~29.3/31
道路維持管理業務委託その1(東部地区)	南那須地区	(有)田村建設	3,528	5/10~9/28
道路維持管理業務委託その1(西部地区)	南那須地区	木島興業(有)	3,601	5/2~9/28
道路維持管理業務委託その1(南部地区)	南那須地区	(有)板橋建設	3,622	5/2~9/28
道路維持管理業務委託その1(北部地区)	南那須地区	(有)相河組	3,570	5/11~9/28
七合小学校体育館改築工事	谷浅見	平野・山田・渡邊特定建設工事共同企業体	273,525	5/12~12/20
七合小学校体育館改築工事(電気設備工事)	谷浅見	(有)斎藤電気工業	29,406	5/14~12/20
七合小学校体育館改築工事(機械設備工事)	谷浅見	佐藤工業(株)	12,180	5/8~12/20
古文書等の歴史資料整理活用事業業務委託	大金	凸版印刷(株)	3,927	5/25~25.2/28
烏山中学校プールろ過装置改修工事	南1丁目	三水プラント(株)	9,555	5/24~6/29

入札等に関するお問い合わせは、総務課管財係 ☎0287-83-1111 まで。

定住促進奨励金制度 住宅リフォーム助成金制度

は今年度で終了します

市では平成20年1月から定住促進奨励金制度を、平成23年4月から住宅リフォーム助成制度を実施してきましたが、両制度とも平成25年3月が申請期限となります。

○定住促進奨励金制度

市内在住又は市外から転入され平成20年1月1日以降に住宅等を取得し、居住を開始した人に奨励金を交

付します。

対象要件 ①住宅を新築(敷地内への建替えを含む)②中古住宅や分譲マンションを購入③市の「空き家等情報バンク制度」に登録された家を借り定

住するために改修(額は別表参照)

主な申請資格 ①取得住宅に継続して住む②居室、台所、浴室、トイレ、玄関がある③市税等の滞納がない等

○住宅リフォーム助成金制度

市民が現在住んでいる住宅を、市に登録した市内施工業者(個人又は法人)を利用して30万円以上のリフォーム工事を行った場合に、工事費用の10%(上限10万円)を助成します。なお、市の災害復旧等支援金を受給した住宅は対象外です。(着工前に計画書を提出)

申請資格 ①市内に1年以上住民登録

録をしている②住宅の所有者又は親族(2親等以内)で現在居住している③市税等の滞納がない等

対象住宅 ①市内の住宅で新築後5年を経過②併用住宅は居住部分のみ、集合住宅は専有部分のみ等

対象工事 ①増改築②基礎、土台等の補強③床、内装、天井等の補修④断熱、防音性能等の向上⑤台所、浴室、トイレ等の改修⑥屋根、外壁、雨樋等の修繕

■商工観光課 ☎0287-83-1115

(別表)奨励金の額

区分	奨励金の額
住宅及び敷地を取得	30万円 (中古住宅は15万円)
住宅のみを取得	20万円 (中古住宅は10万円)
空き家を改修	改修費の1/2 (限度額15万円)

春の叙勲受章 おめでとうございます

瑞宝単光章 國井昌美さん(金井1)



で41年の永きにわたり、消防団発展のために尽力してきました。この間、特に機械器具等の整備、教育訓練指導、防火思想の普及等に貢献。消防委員会委員として消防行政に意見を述べ、迅速かつ安全な活動ができるよう努めました。

2012年春の叙勲が「みどりの日」の4月29日に発表され、市内では、金井1丁目の國井昌美さんが消防の功績で受章されました。

瑞宝単光章を受章した國井さんは、昭和40年に旧烏山町の消防団に入団以来、平成18年に那須烏山市烏山消防団副団長で退団するま

目指したい」と話していました。

会長に小森茂さんを互選

農業委員会委員を紹介します

5月20日、任期満了に伴い行われた農業委員会委員の選挙は、5月13日の告示日に候補者の届出が定数の20人(選挙による委員であったため、全員が無投票で当選となりました。また、農業団体と市議会から推薦された5人の委員も決定しましたので紹介します。

なお、5月22日に開催された農業委員会総会で、会長に小森茂さん、会長職務代理に塩野哲男さんを互選しました。

委員名は、次のとおりです。(敬称略。委員名、選挙区・推薦団体、住所の順)

■選挙による委員(選挙区・年齢順)		■選任による委員	
山村 保 第1 初音	中山 壽 第2 藤田	池田 久雄 第1 上境	久郷 義美 第2 森田
小森 茂 第1 大木須	越雲 宏 第2 熊田	塩野 哲男 第2 大金	塩野 博 第2 曲畑
佐藤 純一 第1 興野	関 閣夫 第2 八ヶ代	金子 博 第2 三箇	小関 洋一 第2 志鳥
高野 義彦 第1 落合	中山 正樹 第2 八ヶ代	栗田 義之 第2 上川井	栗田 芳定 第2 上川井
小田戸康幸 第1 下境	中山 正樹 第2 八ヶ代	薄井 好昭 第2 小白井	中山 壽 第2 藤田
小林 達夫 第1 谷浅見	佐藤 善明 第2 八ヶ代	石川 実 第1 大桶	越雲 宏 第2 熊田
大野 隆 第1 神長	栗原 一夫 第2 曲畑	菅間 唱司 第1 野上	関 閣夫 第2 八ヶ代
	興野 礼子 第2 小野		関 閣夫 第2 八ヶ代
	木下智恵子 第2 志鳥		関 閣夫 第2 八ヶ代



多くのギャラリー。



イベントコーナーでP R。



石川遼の練習ラウンド。

烏山城C Cで

全日本プロゴルフ選手権大会

全国から 4日間で3万2千人

男子ゴルフの国内3大会の第1戦「第80回日本プロゴルフ選手権大会」清カップヌードル杯「日本プロゴルフ協会主催」が、5月10日から13日まで、烏山城カントリークラブ（加藤禎一理事長で開催されました。同クラブでは、23年ぶり2度目の開催となる大会に、石川遼や池田勇太など144人が出場し、熱戦を繰り広げました。会場には、4日間で延べ3万2千人の観客が、全国から詰め掛けました。大会前日の9日には、練習ラウンドが無料公開され、この日だけでも4500人を超えるギャラリーが来場しました。

今大会の注目は、何と言っても石川遼。ジュニア時代から同クラブでプレーし、コースも熟知していることから、市民も大きな期待を寄せていました。残念ながら決勝には進めませんでした。惜しい拍手を送りました。最終日、接戦を制し日本一に輝いたのは、谷口徹でした。市は、優勝した谷口選手に、「那須烏山市長賞」として、市内産の米1年分を贈りました。

大会期間中、会場内のイベント広場では様々な催しが開かれ、市も、全国からの観客に対し、関係者が協力して特産品等、当地域の魅力をP Rしました。

まちづくり研究会が鯉のぼりまつり

清水川公園でオープニングセレモニー

那須烏山市まちづくり研究会（天久保忠且委員長）では、4月15日から5月6日まで、清水川せせらぎ公園と国見地内で第5回鯉のぼりまつりを開催し、地域の活性化を目指して、市民から寄贈された鯉のぼり460匹が両会場に飾られました。

ほかにも、消費者リーダー会のクイズや、フリーマーケットなど、多くの催しで会場はにぎわいました。



ミニ鯉のぼりのプレゼント。



「ベジタマン」のダンス。



烏山高校による吹奏楽演奏。